

漢文特別課題 疫病・地震

*〔後漢〕『論衡』訂鬼

顓頊氏有三子。生而亡去為疫鬼。一居江水、是為虐鬼。一居若水、是為魍魎鬼。一居人宮室区隅漚庫、是為小兒鬼、善驚人小兒。

〔注〕顓頊Ⅱ中国古代伝説上の皇帝。

疫鬼Ⅱ疫病神。 江水Ⅱ長江、今の揚子江。

虐鬼Ⅱ人を重病にさせる暴虐な鬼。

若水Ⅱ今の四川省西部を流れる鴉襲江。

魍魎鬼Ⅱ水中に住むという怪精。

区隅漚庫Ⅱ小屋のすみ、暗くじめじめした倉庫。

*〔江戸〕故応齋玉花『輕口福利』

ある年、疫病はやりて、諸人悩みけるまま、家々に山伏を頼み、疫病よけの祈禱をして、札守りをもらひ、門々にはりで、疫神を防ぎけり。それをさるしはき男、うらやましく思ひけれど、もとより祈禱をば頼まば札銀やらではすむまいが、守りは欲しし札銀は惜しい。いかがせんと案じけるが、所詮、人の門にをしたる守りを盗み取り、我が家にはりても同じことなると、その夜、ひそかに人に家にしてある札をめくり取り、我が戸にはりておきたりしに、その明くる朝、隣の人、ふとかの戸を見れば、「貸店あり」と、はり紙してあり。不思議に思ひ、急ぎ亭主をたたき起こし、「あまりこなたが朝寝するゆゑ、さだめて子どものいたづらならん。戸に書き付けをしておいたわ」と言へば、亭主あくびしながら、「それは我がはりたる疫病の守りぢや」と言ふ。「いやいや、守りならば、貸店」と書くはずはあるまい」と、ひきまくりて見せれば、かの男肝をつぶしながら、抜からぬ顔にて、「いやいや、それにはころがある。疫病がこれを見たらば、この家には主がないと思ひ、入るまいとて、わざと、貸店ありと書きました」と。

〔注〕札守りⅡ神仏の霊がこもるお守の札。

貸店Ⅱ貸家、家の戸口に貼り紙をして借り手をさがした。

抜からぬ顔Ⅱ平気な顔。

*〔南朝宋〕范曄『後漢書』張衡伝

嘗一龍機發而地不覺動。京師學者咸怪其無徵。後數日、地震隴西。於是皆服其妙。自此以後、乃令史官記地動所從方起。

〔注〕龍機Ⅱ地震計測器。龍の口から玉が落ちて地震が起きた方向が分かるようになっていた。

隴西Ⅱ現在の甘肅省東南部。

「駅」古代の郵便制度

秦の天下統一の後、全国に幹線道路が張り巡らされ、馬を走らせて手紙を送った。道路には「駅・亭・郵」といった中継基地が整備され、馬を乗り継いで手紙を駅伝していった。「駅伝制」↓「飛脚」駅伝の起源と言われる。しかし、一般人はこれを利用することはできず、旅人に手紙を託して届けてもらうことが一般的であったようだ。

*覚えておこう、重要漢字！

漢文では、見慣れた漢字が日常生活で使う意味とは違う用法で出てくることもある。漢和辞典があれば、調べてみよう。

①「服」名 着物・衣服

動 ①着る・身に着ける〔着服〕

②付き従う〔服従〕

③感心する〔敬服〕

④薬を飲む〔服用〕

②「妙」形 ①うつくしい〔妙齡〕

②優れている〔巧妙〕

③若い〔妙齡〕

*「変な、おかしな」(奇妙)というのは日本語の用法。